

JAL愛媛争議団を支える会

ニュース



勝利解決の日まで
たたかう

発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛争議団を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2

2024.2.16 松山市駅前宣伝



リスペクトして、地域の人たちと

ついに14年目に突入しました。

解雇されて裁判を起こしたとき、生まれたばかりの我が子連れで法廷に立ち、陳述をした仲間がいました。あの時の赤ん坊はもう中学生です。そう考えると、年月の流れの速さに恐怖さえ感じます。

こちらに戻ってきて思うことは、日本人は、特に地方は皆、人が良すぎる、ということ。世の中の流れを把握し、考え、行動することが不得意なようにも見えます。

私の住む南予では、伊方原発、南海トラフという爆弾を抱えているにも関わらず、「どうせわしらはもうすぐ死ぬけんかんまんのよ」、「給料があがらなくても、上げてく

ださい言うたら会社がつぶれてしまうけんな」、「自民党のおかげで息子は仕事をもらとるんよ」、「組合は仕事をもろたら大ごとよ」、「ちよつと政治の話をするよ」、「ひとみちゃん共産党員な

JAL被解雇者労働組合
西予市在住 大池ひとみ

ある、田んぼもある、畑もある。蓄えもそこそこある。でも、この先何が起こるか分からない不安が無駄な消費を控えさせ、経済が回らない一つの要因を作っています。古代からの農耕民族の血が脈々と受け継がれているのかもしれない。

「地域の意識と慣習を変えるのはとてつもない時間が必要」と言った人がいます。その通りだと思います。だからと言って何もしないわけにはいきません。
(裏面に続く)

私を 応援

します



私はなぜ JAL不当解雇撤回闘争を支援するか

松山労連議長 矢田 泰彦

私は高所恐怖症であるが、交通機関の中で事故率が最も低いのが飛行機だと聞いている。その安全は労働者たちによって守られているのだ。しかし、その労働者が不当解雇され、最高裁でスト介入が断罪され、ILOからも何回も勧告されても変わらないJALの体質を変えないと、いつ事故が起こってもおかしくないと思った。だから、それに毅然と闘っている被解雇者労働組合をできるだけ支援したいと思っている。

正月の羽田の事故を見た瞬間、相当の犠牲者は避けられないと思った。しかし、JAL機内の犠牲者はゼロ。乗員らの的確な判断があったと思う。後で聞くと、ドアの数だけ客

室乗務員がいなければ危なかったらしい。国土交通省の管制官は2分ごとに飛び立つ飛行機を管理する。緊張のしっぱなしの中のミスは労働者だけの責任ではないだろう。以前、大風でタイヤが乱れた京急品川駅で、電車が出るとすぐに次の電車が入ってきた。ホーム係の緊張は相当なものだったろう。

安全を守るには、マニュアルだけではだめで、十分な態勢と臨機応変に対応するベテランが必須だ。会社にものがいえる労働者がいることも大事だ。

労働組合の組織率が低下しているいま、闘う労働組合を少しでも支援したい。

いろいろなことに手を染めて、争議団の活動と並行していつもバタバタしています。今、特に力を入れてるのが、中世の山城を調査発掘整備して、それを町の活性化に繋げようとする取り組みです。

南予農民の

不屈の階級的エネルギー

中世の時代、淀川から瀬戸内海一帯、南予、宇和海を掌握し、中国の宋とも貿易をしていた京都の公家大名西園寺氏は、350年の治世ののち、土佐の長宗我部氏によって滅ぼされますが、旧宇和町だけで116の山城が残っているのです。ですが、当時の資料はほとんど見つかりません。つい最近、宇和島の図書館で調べ物をしていた時、たまたま目に留まった「南予の百姓一揆」を紐解いてみると、西園寺の最後のお殿様公廣の文字がありました。読み進んでいくうち、驚くべき事実が判明しました。

天正から明治の約300年の間に日本全国で1500件の百姓一揆が起こり、そのうち南予だけで92件あったと筆者は書いています。『これは抜群の割合を占めるもので、南予の農民の不屈の階級的エネルギーと高い政治的自覚を示している』これにはビックリ、目が点になりました。500年前の南予の農民たちはすごかったのだ！『在地領主層と結びついて西園寺氏に代わって入ってきた戸田氏に對抗』したり、『年貢定めの条件を出して、解散の勧告を受け入れたら』していたらしいことが書かれています。

そもそも一揆に至るのは、熾烈をきわめた租税の徴収が原因で、結局最後は鎮圧され、多くの農民



宇和町 松葉城址から見た雲海

が残酷な殺され方をしてしまうのですが、『幕末の頃には世直し一揆の原初的な形態として、農民の社会変革を要求し、村政の民主化、封建的隷属からの脱却を目指した。さらに、選挙制の要求は、幕末の南予の農民の政治的自覚の程度を示している。』と書かれています。南予人は、そういう素地をも

っているのです。黙っておとなしく、ことなかれ主義、付和雷同に甘んじる人たちではなかったのです。

学問に接する機会がなかったであろう農民たちが『極めて計画的と思われる行動を開始し、庄屋と交渉して要求事項を突き付けた。』とあるのもかなり爽快です。

500年の眠りから目を覚ませば、皆が動いていけるかもしれないということですね。元気が湧いてきました。もつと地域の人々をリスペクトしなくては。

南予の皆さん、疑ってかかってごめんなさい。財力も土地も学問も何も持ち合わせていなかった民が、虐げられても我慢せずに、できることを模索して力を合わせてやってきた歴史があることがわかりました。それを誇りに思い、一緒に声をあげて行動しましょう。

これは南予だけにとどまらず、日本全体に当てはまることだと私は考えています。

JAL青空チャンネル 第21回「羽田衝突事故を考える」(2024.2.1)



JAL 青空チャンネル
YouTubeで配信中



チャンネル登録
お願いします。

JHU青空チャンネル
視聴
お願いします